

ブロック塀の安全対策

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震では、ブロック塀の倒壊、本棚やタンスなどの転倒により人的被害が発生しました。基準を満たさないブロック塀や老朽化したブロック塀は、倒壊により人的被害や避難路の寸断が発生する恐れがあり大変危険です。

県では、県内すべての学校施設や主要通学路などでブロック塀の緊急安全点検を実施し、安全対策に取り組んでいます。

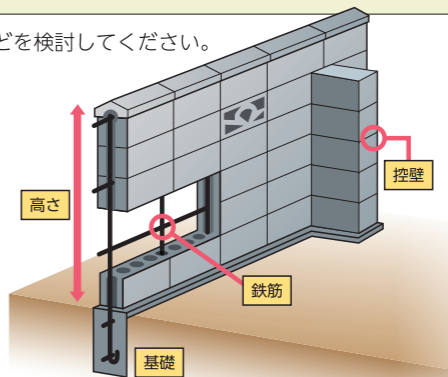
また、ご家庭におかれても、チェックシートを活用した安全点検をお願いします。市町村によっては、ブロック塀の安全対策に係る費用の補助制度を設けていますので、詳しくは市町村担当課にお問い合わせください。

チェックシート 1つでも該当する場合は、基準を満たさない可能性があります。

項目	点検内容	チェック該当は○
1 高さ	塀が2.2mよりも高い (道路から高さを確認してください)	
2 控壁	塀の高さが1.2mを超えているが、 控壁がない 若しくは 間隔が3.4mを超えている	
3 基礎	コンクリートの基礎がない 若しくは 確認できない (ブロックは基礎ではありません)	
4 鉄筋	タテ、ヨコ80cm以内の間隔で鉄筋が 入っていない 若しくは 入っているかわからない	
5 老朽化	傾き、ひび割れ、欠けがある	

参考：コンクリートブロックは1つあたりタテ20cm、ヨコ40cmが一般的な大きさです。

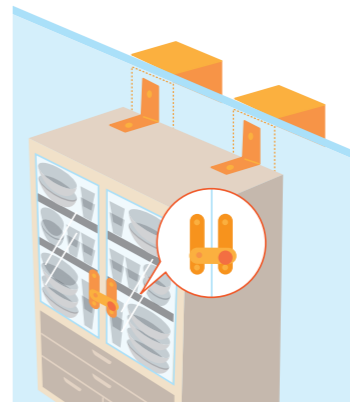
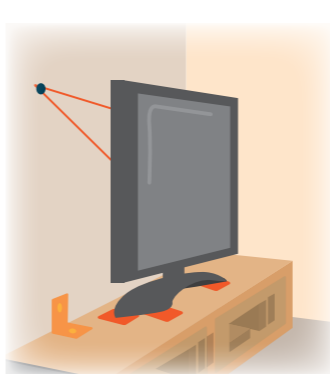
※基準を満たしていない場合は、撤去や補強などを検討してください。



※ブロック塀図 出典：(一社)全国建築コンクリートブロック工業会

家具固定

L型金具などによる家具の固定や家具の置き方を工夫することで、家具の転倒時の被害を軽減することが出来ます。県では家具の固定器具取付工事を専門業者に依頼したい方のために、「家具等固定施工業者登録制度」を設け、登録業者を紹介しています。



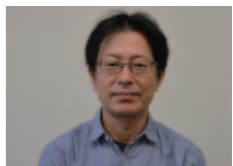
問 県庁防災企画課

☎073-441-2271

インタビュー

和歌山県建築士会

副会長 中西 重裕さん



基準を満たしていないブロック塀は、倒壊の恐れがあるなど大変危険です。狭い道のブロック塀が地震により倒壊すれば、避難路を塞いでしまう可能性もあります。ブロック塀の安全点検は個人で簡単にできますので、まずはチェックシートで自己点検を行い、不安があれば相談してください。

自分のまわりをしっかりとチェックし、ひとつひとつ安全対策を積み重ねることが命を守るにつながります。

相談方法

建築士に直接電話で
お問い合わせください。
相談は無料です。



建築住宅課

※相談員の名簿については、
県庁建築住宅課WEBサイトに掲載しています。

出張！減災教室

出張！県政おはなし講座

「出張！減災教室」では家庭や地域での防災意識を高めるため、地震体験車を用いた防災学習や家具固定に関する講座・実演を実施しています。

また、「出張！県政おはなし講座」では県職員が直接会場に向き、防災・減災対策の取り組みを説明します。

問 県庁危機管理・消防課

☎073-441-2260

風水害への備え

ふうすいがい

そな

平成30年7月豪雨では、記録的な大雨により、河川の氾濫や土砂崩れ・がけ崩れが発生するとともに、避難の遅れにより、多くの尊い命が失われました。

県では、紀伊半島大水害後、市町村が避難勧告などの判断を早期かつ的確に実施できるように、日本気象協会の降水予測情報をもとに県独自の気象予測システムを整備・導入し、避難勧告などの判断・伝達モデル基準を策定しました。



市町村が発令する 避難情報を確認！

避難準備・高齢者等避難開始

いつでも避難できるように準備を呼びかけるものです。

高齢者等避難に時間がかかる方は、避難を開始してください。

避難勧告

災害による被害が予想されます。

避難場所等に避難してください。

避難指示 (緊急)

災害による危険性が非常に高まっています。

まだ避難していない場合は、直ちに避難してください。

土砂災害から 身を守るための 3つのポイント

- ① 台風が来る前！
土砂災害警戒区域など、地域の土砂災害のおそれのある箇所を普段から確認する。
- ② 雨が降り始めたら！
雨雲の動きと土砂災害警戒情報に注意する。
- ③ 豪雨になる前に！
大雨時や土砂災害警戒情報が発表されたときは、早めに近くの安全な場所に避難する。また、夜間に大雨が予想されるときは、暗くなる前に避難する。



PC・モバイル端末

わかやま土砂災害マップ

土砂災害警戒区域および特別警戒区域などを確認できます。

河川の情報 ● 土砂災害の情報

- 有田川・日高川・古座川・熊野川などの洪水情報
- 県内河川の水位情報
- ギムの放流量などの情報
- 雨量・土砂災害警戒情報



PC・モバイル端末



携帯端末

和歌山県河川雨量情報

和歌山 砂防課

QRコードを携帯カメラで読み込むと河川の情報、土砂災害の情報が入手できます。

情報を入手し、 早めの避難判断

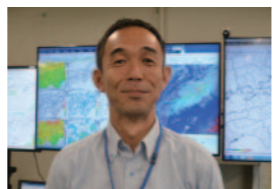
県では、河川の水位や洪水情報、土砂災害に関する情報を、WEBサイト、テレビ和歌山やNHK総合データ放送で提供しています。早めの避難判断に、防災情報を有効に利用しましょう。

インタビュー

気象庁 和歌山地方気象台

防災気象官

坂地 忠さん



近年は地球温暖化の影響もあり、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しています。平成30年7月豪雨では、大雨特別警戒報が運用開始後最多の11府県で発表されました。特別警戒発表時は既に重大な災害が発生しているにもかかわらず、逃げ遅れによる被害に遭わないためには、大雨・洪水警報などの気象情報を活用することが大切です。また、気象庁ホームページの「危険度分布」では自分の場所の危険度をリアルタイムに確認できます。「今までは大丈夫だった」と過去にとらわれず、自分や家族の身を守るために、早めの避難行動をとりましょう。

日頃からの備え

非常持出品

避難するときに最初に持ち出すべきものとして、避難バックに入る程度の量をひとまとめにし、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

非常備蓄品

救援活動が受けられるまでに必要な1週間分程度の水や食料などを、被災後でも取り出せる場所に保管し備えましょう。

